

グローバル化と高校教育改革

学校長 大谷 実

現下の教育改革は、高等学校等教育における大きな質的転換を求めています。高等学校は、「国家及び社会の責任ある形成者として自立して生きる力」を育むために、幅広い教養と行動規範の涵養に向けて、教育内容・学習指導方法・評価方法・教育環境等を抜本的に再検討しなければなりません。より具体的には、知識の質や量の改善に向けた教科・科目構造の見直し、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に取り組むアクティブラーニングの推進、複雑な課題探求力や表現力に着目するパフォーマンス評価に代表される多元的評価の開発、ICTツールを活用した先進的な学習手法の研究等が求められています。

こうした高校教育改革の背景には、テクノロジーが急速に進歩し、社会生活において異文化との接触が増大し、グローバリズムのもとでの新しい相互依存の形態が出現するなど、急速に変貌する現代社会の到来があり、その喫緊なる諸課題に対してイノベーションを創出しながら柔軟に対応する資質と能力を涵養することが求められているからです。文部科学省の「スーパー グローバル ハイスクール」事業では、こうした資質や能力を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校段階から育成するための在り方を研究開発することが期待されております。

本校は、昨年度よりSGH研究校に指定され、「北陸からイノベーションで世界を変えるグローバルリーダーの育成」なる研究課題に金沢大学の全面的な支援のもとで取り組み、先進的な高大接続モデルを提供することを目指し、日夜取り組んでおります。本研究では、北陸の地域から世界へと視野を段階的に広げる4つの課題研究（「地域課題研究」・「異文化研究」・「グローバル提案」・「グローバルキャリアパス」）から成る首尾一貫したカリキュラムを開発し、各課題研究の質を高めるために様々な外部資源を有効活用し、さらには、課題研究の基礎をなす既設教科の内容と方法にグローバルな視点を取り入れつつ幅広い基礎的教養の習得と英語運用力を育成しようと取り組んでまいりました。

幸いにも、SGH事業の趣旨は、本校の草創期からの学校目標と軌を一にしております。本校の源流は、第二次世界大戦下、旧制金沢高等師範学校に、理系分野の顕才を育成するために設置された「特別科学学級」にあります。当時の「特別科学教育実施要綱（案）」には、特別科学学級の目的として、「国民生活ヲ飛躍的二向上シ、進ンデ世界ノ平和ニ寄与スベキ新科学文化ヲ創造センガ為ニ、特別科学教育ノ研究実施ヲナスヲ目的トス」とあり、教育方法の方針には、「眼ヲ広ク世界ニ開キテ科学ノ科学成果ノ精粹ヲ習得セシメ、卓越ナル新境地開拓ヲ助長奨励ス」とあります。爾来、本校は約70年に亘り探究的活動の質自体を大切にする伝統を継承するとともに、学校目標を「国際社会や地球生態系における共生者として、また、個性豊かな文化の創造者として、積極的に自己の責任を果たしていく人間を育てる『地球サイズ教育を行う』」と定めております。SGHの研究指定は、草創期より継続してきた本校の実践が正式に認められたと考えております。

本校の研究紀要を通して、グローバル化の中での高校教育改革の新しい取り組みの一端を理解いただければ幸いです。